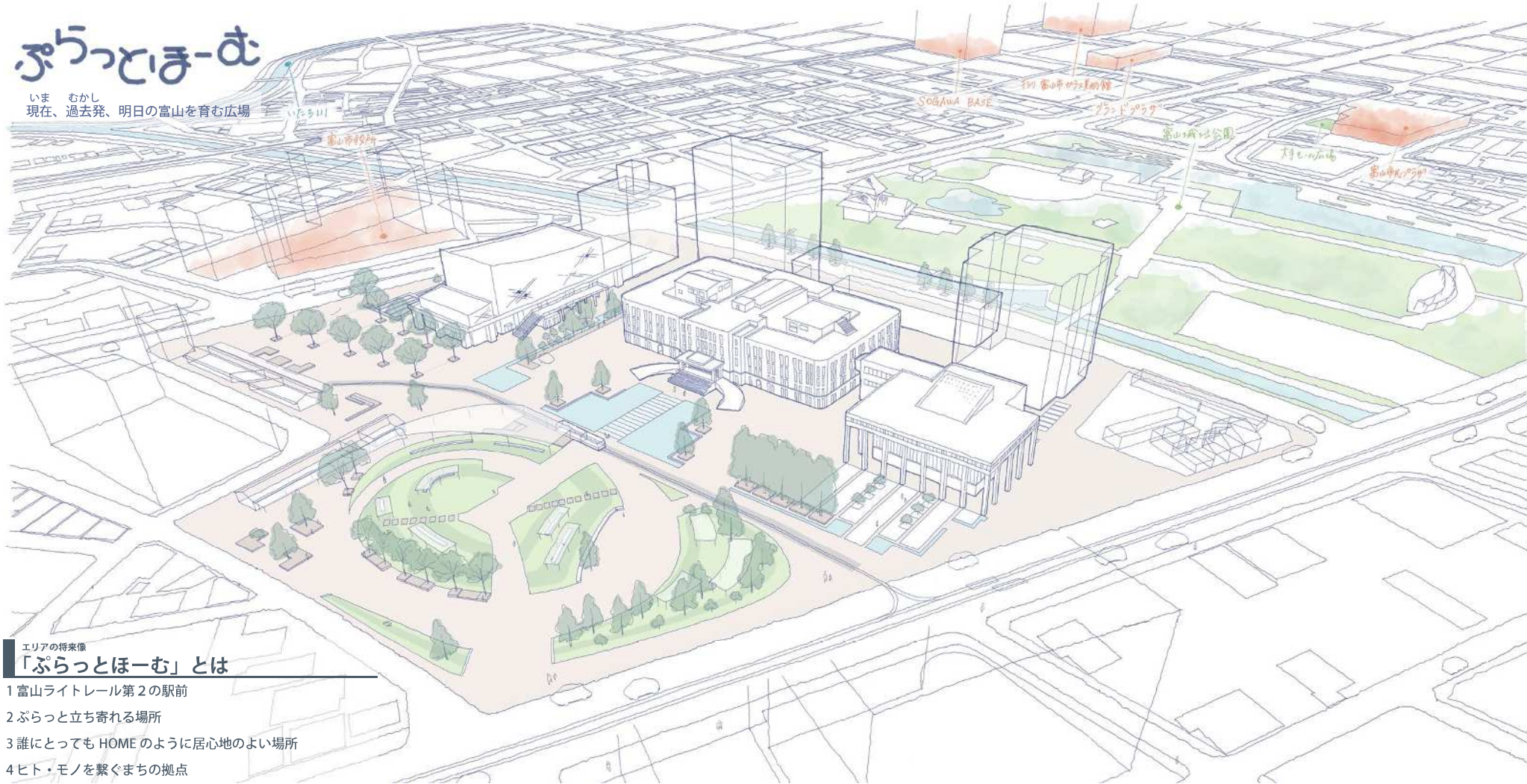


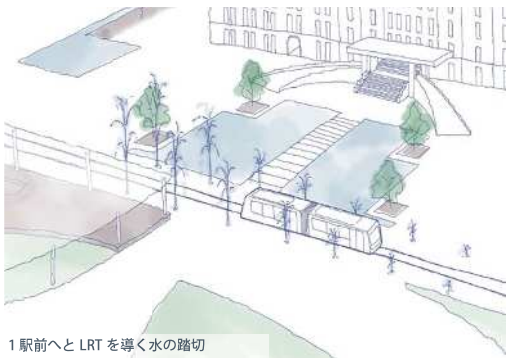
ぶらっとほーむ

いま むかし
現在、過去発、明日の富山を育む広場

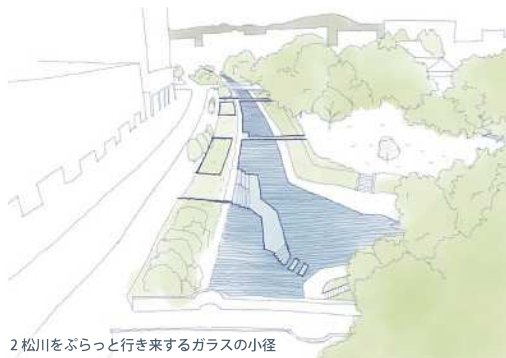


エリアの将来像 「ぶらっとほーむ」とは

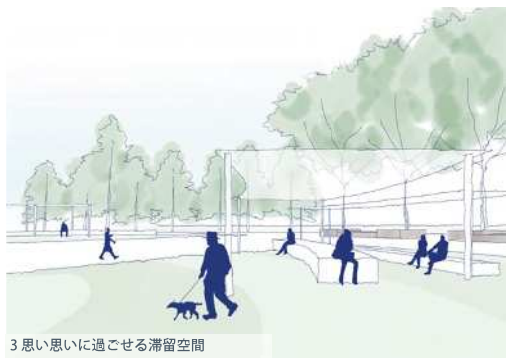
- 1 富山ライトレール第2の駅前
- 2 ぶらっと立ち寄れる場所
- 3 誰にとっても HOME のように居心地のよい場所
- 4 ヒト・モノを繋ぐまちの拠点



1 駅前へと LRT を導く水の踏切



2 松川をぶらっと行き来するガラスの小径



3 思い思いに過ごせる滞留空間



4 ヒト・モノに出会えるお店

エリアデザインの方針

豊かな地域資源

富山は、自然・歴史・産業にまつわる地域資源を豊富に有している。しかし現状はそれらの魅力が活かされていない。

■自然

県庁裏を流れる松川は神通川の旧河道の一部であり、現在も富山に有機的な自然軸を残している。

■歴史

神通川の扇形川地に建てられた県庁周辺の官公街。県庁舎は国の登録有形文化財に指定されており、富山の歴史的遺産である。

■産業

業売り文化に由来したガラス産業が新たな重要産業資源となっている。



富山の歴史：県庁舎 富山の自然：松川 富山の産業：ガラス

エリアデザインの方針

県庁周辺エリアの課題

■まちなかに閉ざされている

県庁を含めた建物群は松川・まちなかに開けておらず、周囲に背を向けている。また、対象エリア内部や周辺は樹木で鬱蒼としていることから、暗い印象となっており、入りにくいのが現状である。

■誰も心地良く感じる居場所がない

現在の県庁前公園は、主に県庁職員にしか使われておらず、来街者・居住者等の誰もが「わたし」の居場所と捉えられる空間になっていない。また、ベンチや四阿等の施設はあるものの、エリア内の位置づけや相互の関係性が曖昧であり、全体として心地良く滞在できる空間とはなっていない。

■人が訪れるきっかけが少ない

対象エリアは県庁や市役所が集まる官公街であり、来街者や居住者が訪れる目的が少ない。また、富山ライトレールの既存の県庁前駅は県庁入り口から離れた場所に位置しており、県庁周辺エリアの玄関口として印象・機能が弱い。

■まちなかへの発信力・繋がりが乏しい

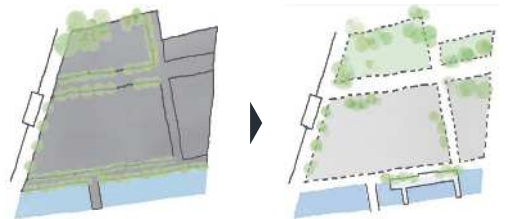
対象エリアは富山駅と総曲輪をはじめとするまちなか商店街の中間に位置する。したがって、まち全体の賑わいの核となるポテンシャルを有しているが、発信力に乏しく、まち活性化に活かされていない。

エリアデザインの手法

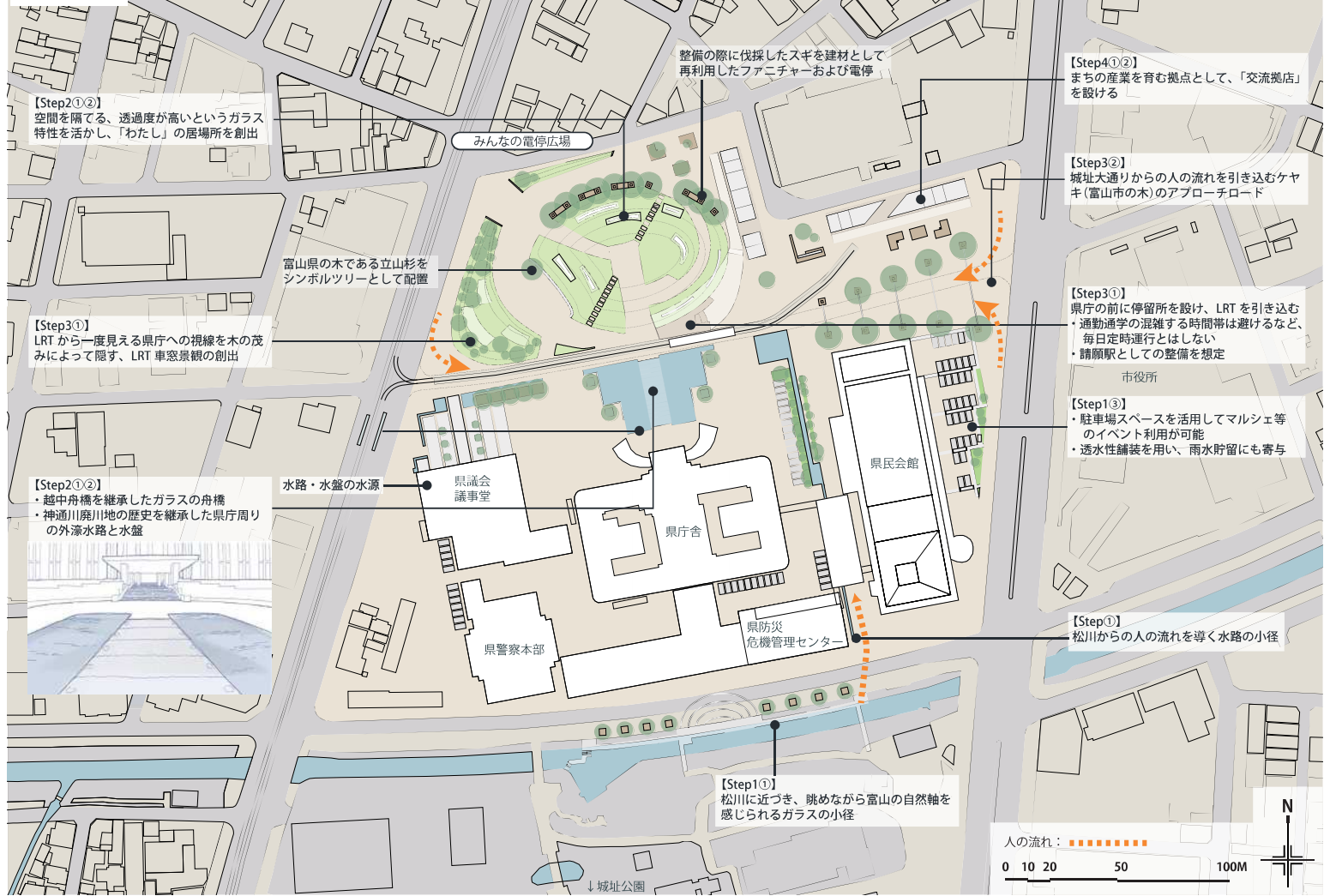
ぶらっとほーむを作るために

Step1 県庁周辺エリアを川・まちにひらく

- ①対象エリアから松川への動線を整備する
- ②松川の自然軸を活かした空間を整備する
- ③駐車場のデザイン変更、樹量を調整する



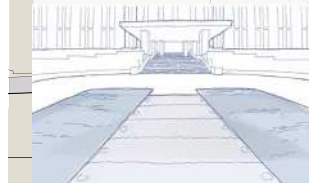
■全体平面図



【Step2①②】
空間を隔てる、透過度が高いというガラス特性を活かし、「わたし」の居場所を創出

【Step3①】
LRT から一度見える県庁への視線を木の茂みによって隠す、LRT 車窓景観の創出

【Step2①②】
・越中舟橋を継承したガラスの舟橋
・神通川扇形川地の歴史を継承した県庁周りの外濠水路と水盤



水路・水盤の水源

県議会 議事堂

県庁舎

県警察本部

県防災 危機管理センター

県民会館

市役所

城址公園

整備の際に伐採したスギを建材として再利用したフアンチャーおよび電停

【Step1①】
松川からの人の流れを導く水路の小径

【Step1①】
松川に近づき、眺めながら富山の自然軸を感じられるガラスの小径

【Step4①②】
まちの産業を育む拠点として、「交流拠点」を設ける

【Step3②】
城址大通りからの人の流れを引き込むケヤキ(富山市の木)のアプローチロード

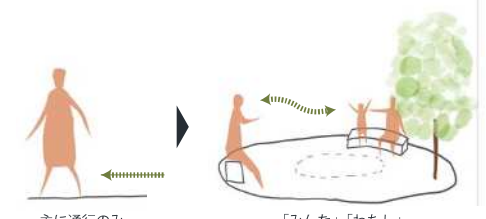
【Step3①】
県庁の前に停留所を設け、LRT を引き込む
・通勤通学の混雑する時間帯は避けるなど、毎日定時運行とはしない
・請願駅としての整備を想定

【Step1③】
・駐車場スペースを活用してマルシェ等のイベント利用が可能
・透水性舗装を用い、雨水貯留にも寄与



Step2 「みんな」と「わたし」の居場所を創出する

- ①居心地のよい滞留空間を設ける
- ②視線の演出により適度な見られる見られる関係を創出する
- ③「みんな」で広場の名前をつけ、親しみを醸成する



主に通行のみ

「みんな」「わたし」の居場所

Step3 人の流れが交錯するノード空間を創出する

- ①県庁の前に停留所を設け、LRT を引き込む
- ②エリアの向けの新たな人の流れをつくる



Step4 まち活性化の仕掛けを設ける

- ①人と人が繋がり、まちの賑わいを育む拠点を整備する
- ②交流の輪をまちなかに広げ、賑わいを持続させる仕組みを整備し、空間的・時間的な繋がりをつくる



一步を踏み出すぶらっとほーむ

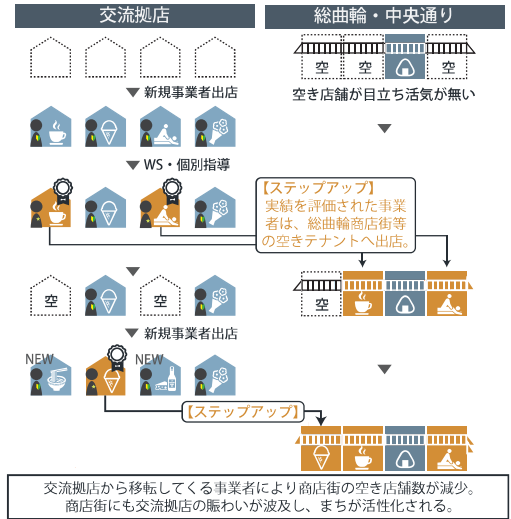
総曲輪エリア

ヒト・モノが空間・時間を超えて繋がるしくみ

■行政・商店街が連携した「交流拠点」の運用

関係が希薄化した対象エリアと総曲輪や中央通り商店街エリア。城下町・県都として栄えたかつての賑わいを取り戻すべく「交流拠点」での短期販売により新規事業者を育て、商店街の賑わいの創出者を輩出する。

○交流拠点から始まるまち活性化のしくみ



○交流拠点から始まるまちなかの交流の輪を広げるしくみ



個人店ならではの、事業者と消費者の繋がり、顔を合わせた交流が生まれる。お気に入りの店が見つかる。

常連店との繋がりが移転後も持続し、総曲輪に通うキッカになる。

総曲輪と交流拠点を行き来する仕組みを作る。

店の入れ替わりがあるたびにきとぎとな気持ちは生まれる場所になる。

○交流拠点を創り上げる富山ユナイト協会(仮称)

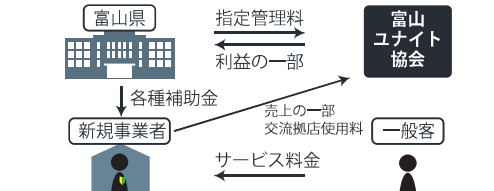
- 富山ユナイト協会の役割
- ・新規事業者1人に対しアドバイザーを1人つけ、開業・経営の知識やノウハウを指導する。
 - ・構成メンバー外の事業者や他のアドバイザーから意見をもらう、ワークショップを県庁の空室となっている部屋で開催する。
 - ・交流拠点空室時の一時的な出店事業者を調整、管理する。



- ※富山ユナイト協会を構成するメンバーとして想定する団体
- ・県商店街振興組合連合会
 - ・富山県中小企業同友会
 - ・富山市中小企業団体中央会

○交流拠点を取り巻くキャッシュフロー

富山県は交流拠点を整備し、富山ユナイト協会は指定管理者として交流拠点の運営、維持管理を行う。



- ※各種補助金
- ・利用しやすい新規補助金制度の策定
 - ・既存の補助金制度の利用
- 【ワクワクチャレンジ創業支援事業 富山リリターン起業支援事業 等

■越中舟橋を彷彿とさせるガラスの舟橋

県庁前の水盤の間に、かつての神通川舟橋を再現した越中ガラス舟橋を整備する。舟橋は、県庁が建つ場所に神通川が流れていた頃、川を渡るために使用されていた。歴史を思い起こし、現在の富山の色を加えるために、舟の代わりに現代富山の産業を象徴するガラスを用いる。ガラスは計15枚で構成され、富山県の各市町村が1枚ずつ用意・維持・管理するものとする。



(出典：月刊クッドラックとやま)

○ふるさと清掃

富山県庁周辺を訪れた人は自分が住んでいる市町村のガラスを拭く。ガラスを拭いた回数に応じて、各市町村の特産品を貰える仕組みを導入する。



○富山県民と共に...

15枚のガラス一枚一枚には、富山県の各市町村の紋章が刻まれている。県庁前に各市町村の要素を加えることで県の中心である自覚と愛着が芽生える。

■県庁周辺エリア整備後の活用イメージ

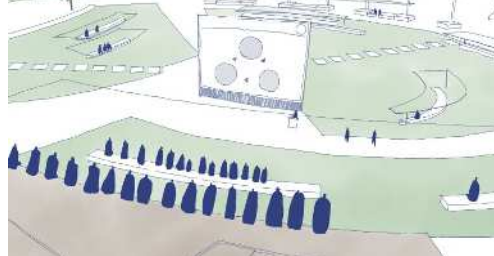
■せっかく来たし、舟橋の上で写真撮っていいこうか 観光客が越中舟橋とその紋章を撮影する



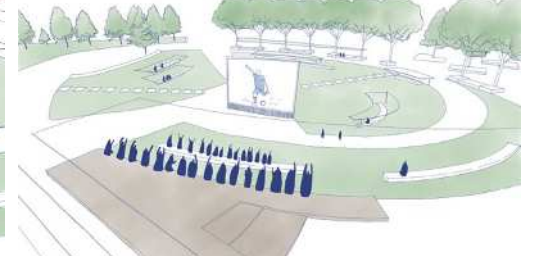
■いつもこの水盤に月が綺麗に映るとんがやぜ 水盤に映る月を眺め、中秋の名月にはお月見会を開く



■富大の授業やとららしいから聞いてみようよ 広場でワークショップや講義を受ける



■カターレのアウェイ戦でも観に行こうよ 広場でパブリックビューイングや映画鑑賞会を楽しむ



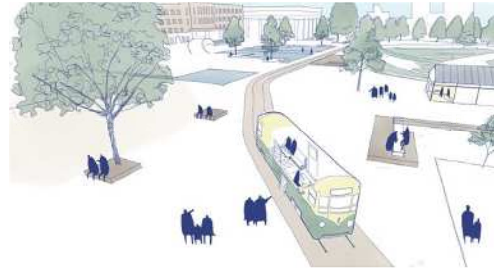
■ツリーみんなで飾りつけるらしいから行け？ クリスマスにはまちのみんなでシンボルツリーを飾り付け



■結構雪積もったし、そりで遊んでこれ 冬には広場の窪地で子どもがそり遊びを楽しむ



■使われなくなった市電でご飯食べれるらしいよ 古いLRTを活用し、トラムレストランを開く



■あれ、こんなところでマルシェやとらぜ 週末は商店街のお店が木の回廊エリアで青空市場を開催する

